

# 平成 26 年度 事業報告書

(平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人 広島聴覚障害者福祉会

## 1. 事業の成果

### 〔1〕 特定非営利活動に係る事業

#### (A) 法人本部の活動

##### 【全体総括】

2014 年度は社会福祉法人化に向けて、大きく前進した 1 年でした。平成 26 年 2 月に広島市より未利用地の利用希望調査（照会）があり、当法人と社会福祉法人もみじ福祉会が希望の手を挙げました。最終的に他からは希望がなく 2 つの事業所で分け合って利用することになりましたが、互いに必要とする土地の面積がその土地の 50%を超えたため、2 者での話し合いはなかなか決着せず、約半年間 8 月末までかかりました。最終的には次年度の施設整備の募集が始まるため、広島市が両方の事業所を訪問し、調整に乗り出すことで決まりました。土地の分割を当事者で話し合っただけという方法のまずさを身を持って感じました。9 月に民間障害者福祉サービス事業所等整備の計画書を提出し、27 年度の施設整備補助金が市議会に上程する運びとなりました。

NPO 法人が社会福祉法人をめざして資金作りをし、また社会福祉法人をめざす会を立ち上げて、約 4 年間街頭カンパや他団体、個人に寄付をお願いして最終的に 4500 万円の自己資金を作りました。

また、広島ろう重複障害者アイラブ作業所、ヘルパーステーションアイラブ、放課後デイサービス「手と手の広場」の 3 つの事業に加え、一人暮らしの仲間のための「アイラブの家」を 10 月より開設し、数名の仲間が体験をしたり、そこで生活を始めました。また、ろう高齢者の集まる場所、ろう高齢者を支える拠点作りについても、今後の福祉会の課題として取り組んでいかなければならないと思います。

#### ① 法人本部の活動

##### ・理事会、総会

	年月日	開始時刻	会場	備考
第 1 回	平成 26 年 5 月 29 日 (木)	18:30~	吉島福祉センター	
定期総会	平成 26 年 6 月 19 日 (木)	〃	〃	
第 2 回	平成 26 年 7 月 17 日 (木)	〃	〃	
第 3 回	平成 26 年 9 月 18 日 (木)	〃	〃	
第 4 回	平成 26 年 11 月 20 日 (木)	〃	〃	
第 5 回	平成 27 年 1 月 15 日 (木)	〃	〃	
第 6 回	平成 27 年 3 月 26 日 (木)	〃	〃	

##### ・監査

	年月日	開始時刻	会場	備考
中間監査	平成 26 年 11 月 12 日 (水)	18:00~	アイラブ作業所	
2014 年度決算	平成 27 年 5 月 26 日 (水)	〃	〃	

##### ・管理者会議

毎月 1 回の管理者会議を実施。3 事業所の管理者と法人の経理を担当する川本参与、ならびに理事長の濱村 5 名で行ってきた。毎月の月次決算をもとに、法人の全体の運営状況の把握、本部会計への繰入や各事業所の問題点や状況を共有し、時間の許す限り情報交換をしてきました。

##### ・人事委員会

職員の面接、採用にあたっては、随時人事委員会の理事長（濱村）理事（大西）各管理者 3 名が面接を行い、採用・不採用を決めました。平成 26 年度は 4 月に新卒の常勤採用を行ないましたが、平成 27 年度は新卒を採用しませんでした。

##### ・課題

平成 26 年度も法人全体の研修会や職員会議が実施できずじまいでした。

互いの事業所の活動の理解や職員間の連携、法人全体の共通認識を形成することが重要であると考えています。が、実際には日常の業務に追われ、事業所間の研修もなかなか実現しない状況です。また、職員の採用にあたっては、若い職員の育成には時間がかかるため、どうしても即戦力になるベテランの職員を求めてしまいます。

来年度は社会福祉法人になった時のために、法人事務のできる職員ならびに障害者相談支援事業所の専門相談員等人材探しが急務の課題です。

## (B) アイラブ作業所（生活介護事業・就労継続支援B型事業）事業報告

### 1. 創作活動・生産活動

#### 菓子工房 ミニせんべい、黒ゴマきなこ棒、クッキー、パンなど

- ・販路としてふれ愛プラザ、市民病院売店、土谷病院売店、中電病院売店、定期的な市役所で販売を行った。13年度からユアーズ高須店で販売していたが、職員が仲間と一緒に外出することが難しく、今年度は中止。他には様々な行事等に参加し販売することができた。3月には新しい職員の発案で新たな商品（チーズクッキー、ブラックペッパーチーズクッキー）を作った。
- ・せんべいのパッケージ改善については、NPO法人おりづる未来プロジェクトとともに取り組んできたが、作業所15周年と重なり中断してしまった。引き続き、取り組む必要のある課題である。また今後製造過程を視覚化し、仲間たちが自発的に作業できるよう工夫していきたい。

#### 縫製品等製作 靴下わか製品、毛糸製品、コルク製品、ふくろう製品、刺子ふきんなど

- ・新しい職員が入ってきたことにより、ふくろう製品や刺子ふきんを作るようになり、製品の種類が増えた。また、ミシンを使用したことで、ミシンの得意な仲間がいることが分かった。新たなコルク製品として、ミニ植物を使った商品も研究中。
- ・課題としては、職員が請負作業に時間をとられ、新しい商品開発の時間が取れなかった。販売方法の工夫、在庫管理などを行いながら、売れる商品と売れない商品の整理をしていく必要がある。

#### アイラブ独自のグッズ製品販売 クリアファイル、アイラブTシャツなど

- ・15周年記念Tシャツを製作、販売。今回は絵ではなく、習字の得意な仲間いくつか書いてもらい、みんなで選んで決めた。大会時には仲間や職員、ボランティアの人たちが購入して着用した。

#### 折り鶴再生紙製品の販売促進 ノート、メモ帳、ペンなど

- ・広島から平和を訴える製品として、折り鶴再生紙製品を仕入れ、販売。全国や他県の方々が集まる場に置くようにして販売を行った。
- ・おりづる解体作業は、「家で退屈だ」という一人暮らしのろう高齢者が自宅に持ち帰り、作業をしていた。

#### 請負作業 箱折り・バック詰め・試供品貼り・封入・しめ縄づくり・封筒作り・カープV新聞エコバッグ等・駐車場の清掃作業・福祉会ニュース発送作業など

- ・納品日に間に合わせるため、職員が作業していたこともあった。ただ作業の種類はたくさん請け負っているが、作業量に波があり、不安定であることが課題。近所の不動産からの依頼で駐車場の清掃作業を行った。

#### 夏と冬のボーナスの取り組み

- ・夏と冬のボーナス支給に向けてのカタログ販売を行った。

### 2. 利用者自治会「スマイル会」の取り組み

- ・月1回の役員会を開催。日帰り旅行で熊野の筆の里工房を見学し、「ボールを使ったストレッチ」の学習会を行った。学習会は2回の開催予定だったが、1回のみで開催となった。また今年度は作業所まつりと15周年記念大会のため、夏ごろからステージの練習等で慌ただしかったが、役員会を定期的に開催できたことは良かった。課題としては、仲間たちがもっと主導権を持ってできるように、複数の職員体制にしていきたい。

### 3. 家族との連携

- ・13年度の総括及び14年度個別支援計画について本人や家族と面談を行った。
- ・家族のつどい(6/1日)を開催し、年間の事業報告や事業計画等について説明を行い、社会福祉法人化や施設づくりについて意見を聞くことができた。
- ・諸事情により自主的な家族会が開催されなかった。

### 4. 販売活動

- ・ボランティアの協力もあって、様々な行事に参加し、販売を行うことができた。回覧等で全職員に販売活動を周知できたのは良かったが、それぞれが忙しく、調整がつかず参加できなかった行事もあった。市役所販売、

ふれ愛プラザ販売のように平日の昼間でほぼ毎月行っている販売では、仲間の自治会で1年間の当番を決め、職員と一緒に参加をした。自主製品の種類が増え、販売時の管理が複雑化してきたので、整理して見やすい表の作成、工夫が必要である。販売のノウハウなどを身につけ、仲間や職員が商品の良さをしっかりPRできる力をつけていくことが大切だと感じている。

## 5. 第9回アイラブ作業所まつり開催

- ・日時：2014年9月7日（日）10時～15時30分  
会場：吉島福祉センター 全館
- ・例年通り会場は、センター運営者のご協力により半年前に押さえることができた。12月に15周年記念大会を控えていたため、規模を少し縮小し、時期を1ヶ月ほど前にずらしての開催となった。救護室を初めて設け、実際に体調を崩された方が休憩したり、仲間がバイタルチェックを受けることができたのは良かった。イベント開催についての基準が厳しくなり、保健所や消防署に届け出を行い、当日の朝も消防職員による点検を受けた。地域の方々には良く理解していただき、まつりが定着してきたように感じる。  
\*事務局会議（全4回）や実行委員会（全4回）開催。

## 6. 15周年記念大会の開催

- ・日時：2014年12月14日（日）13時～16時  
会場：東区民文化センター ホール
- ・4月に事務局会議を、6月に実行委員会をスタートさせた。まず職員内で役割を決めて取り組んだ。企画内容はアイラブの仲間たちのステージ発表、劇団かかし座公演など。アイラブ作業所のテーマソングを浦田愛さんに作曲していただき、歌詞は職員が作り、「愛がいっぱい」という歌ができあがった。当日は多くのボランティアやスタッフの協力を得ることができ、500名あまりの来場者を迎え、盛況であった。多くの反省点はあったが、観た方から「良かった」「感動した」との感想をいただくことができた。15年間の思いや作業所の取り組みをさらに多くの方々に知っていただくことができ、仲間や職員たちも大きな行事を成し終えたという自信にもつながっていったと思う。

## 7. ろう重複障害者交流事業

- ・日時：2014年7月6日（日）10時～14時  
会場：吉島福祉センター ホール
- ・県内のろう重複障害者の掘り起こしも行い、一人ぼっちをなくす取り組みとして交流会を毎年開催。今年度は15周年記念大会もあり、1回のみで開催となった。施設や広島南特支学校、広島市や廿日市市などの手話相談員へ呼びかけをお願いした。16名の参加者の内、アイラブ以外の参加者やろう高齢者が8名。もっとうろう重複障害者が参加しやすく楽しめる内容を企画していくことが課題だと感じている。

## 8. アイラブ作業所の社会福祉法人をめざす会の取り組み

- ・毎月1回の街頭カンパ活動と、行事などで募金活動を行った。募金が3000万円に達し、見通しができたことから、3月で街頭カンパは終了とした。今年度も多くのボランティアの方々のご協力をいただき、支援の輪を広げることができた。

会議では、街頭カンパの取り組みに関する事、土地問題、社福の移行に関する事、施設中身づくりなどを話し合った。また、新しい施設の設計図案を見ながら、仲間や職員たちに意見を求め、みんなが使いやすい施設の中身作りについて考えることができた。

### 【街頭カンパ活動】11回

4/20(日)そごう前、5/11(日)アルパーク、6/15(日)福屋前、8/10(日)アルパーク、9/21(日)そごう前、10/19(日)福屋前、11/30(日)福屋前、12/23(月・祝)アルパーク、1/18(日)福屋前、2/22(日)アルパーク、3/22(日)アルパーク

### 【めざす会・社福設立準備会会議】9回

4/10(木)、5/15(木)、6/12(木)、7/31(木)、9/11(木)、9/18(木)、10/23(木)、1/22(木)、2/7(土)拡大会議

## 9. 関係団体との連携

### ① きょうされん

- ・職員の中から3名の運営委員を選出し、それぞれが経営管理部会、就労支援部会、組織運動委員会に所属し活動した。また、利用者部会「虹の会」の担当職員を決め、仲間たちが自主的に運営できるよう補助的な役割を果たした。

- ・きょうされん賛助会員の減少を防ぐために、きょうされんの活動の意義をしっかりと伝える取り組みが大切。また、国会請願署名では、きょうされんだけでなく、同じ思いを持つ他団体にも働きかけ、署名数のみでなく活動の力を大きくしていく必要性を感じている。
- ・対市交渉要望懇談会に出席。(11/17月 広島市役所)  
 要望内容①就労系事業利用者の利用料減免について  
     ②休職中の障害のある方の就労系事業・地域活動支援センター利用について  
     ③介護保険優先の見直し など

## ②アイラブ作業所後援会

- ・後援会役員会担当職員を決め、会議に参加した。後援会行事では、役割を持ち、協力することができた。6/1の後援会総会では山上さんのコンサートと「命のことづけ」映画鑑賞、3/8の福祉講演会では「ろう高齢者を支える拠点づくり」と題して、リレー講演を行い、作業所の仲間2名も自分たちの生活について発表。作業所まつりや15周年記念大会では職員と後援会役員が中心となり実行委員会を立ち上げ、ともに成功させることができた。また、めざす会の街頭カンパ活動にも一緒に取り組むことができた。今後も後援会の事務局的な役割を果たし、会を活発化させるために、会員の拡大に向けて取り組む必要がある。

## ③中区作業所連絡会

- ・年6回(6/24、9/10、10/8、11/26、1/14、3/11)の会議に仲間とともに出席し、行事企画、情報交換、近況報告等を行った。また、中区ボランティアまつり(10/25土 中区地域福祉センター)、中区作業所仲間との交流会(8/22金 中区スポーツセンター、2/6金 吉島福祉センター)の行事にも積極的に参加した。

## ④広島市自立支援協議会中区地域部会「街なか交流会」

- ・7月と2月に開催された。7月は作業所関係の交流会だったので、参加。2月は放課後等デイサービス事業所の交流会であった。

## ⑤県就労振興センター、市就労支援センター

- ・出店、販路拡大、各種研修会に参加。

## ⑥聴覚障害者団体・手話関係団体

- ・「広島県の聴覚障害教育の明日を考える会」は、代表世話人として県ろうあ連盟、そして県聴覚障害者親の会、広ろう同窓会、県手話通訳問題研究会、県手話通訳士協会、盲ろう者友の会、アイラブ作業所の7団体で活動した。7月以降はアイラブ作業所としてではなく、NPO法人広島聴覚障害者福祉会として会議に出席し、定期総会、リレー講演、講演会を企画し、役割も果たした。講演会は「ろう教育は今！～日本手話と日本語のバイリンガル教育」というテーマで開催されたが、職員の参加が少ないのが課題である。
- ・その他広島県ろうあ者大会、耳の日大会、広島市ろうあ者大会、広島県の手話通訳問題を考える集会等の関連行事、研修会に参加した。

## ⑦全国ろう重複障害者施設連絡協議会

- ・全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会(11/8～9 大阪)に参加し、職員会議で報告会を行った。次年度はぜひレポートを出したい。

## 1.0. スポーツ・文化活動

- ・例年と同じく広島市障害者陸上競技大会、とうかさでのよさこい(6/6)、ひろしま国際平和マラソン(11/3)などの活動に参加し、みんなで楽しむことができた。また、15周年大会を通して太鼓や手影絵の練習を行い、本番で披露することができた。

## 1.1. 地域や学校とのつながり

### ①広島南特別支援学校

- ・ろう重複障害児者交流会やアイラブまつりの案内を校内に配布してもらおうようお願いした。広ろう祭の販売にも参加。幼稚部から高等部までの卒業式に参列した。また見学や実習の受け入れも行った。

### ②地域の学校、町内会や地区社協、民生委員

- ・アイラブ作業所まつりのチラシを吉島小学校、中島小学校、吉島東小学校、吉島中学校に配布し、協力を得た。
- ・アイラブ作業所まつりのチラシ配布で中島地区・吉島地区にお願いに回る事ができた。吉島東地区においては、お願いしたが配布ができなかった。実行委員及びボランティアでは、今年も民生委員の協力を得ることができた。
- ・吉島西町内会の夏祭り(8/2土 吉島第2公園)、中島地区社協とんどまつり(1/11日 吉島公園)販売で参加。
- ・エコまつり 環ッハッハ in 吉島(10/12日 吉島中工場)に参加。
- ・矯正展(11/9日 市民球場跡地)に販売で参加。

## 1.2. 健康・衛生

### 【健康管理】

週2回看護師によるバイタルチェックを行い、必要な仲間については服薬管理を行った。しかし、職員同士の確認が不足していたことにより、服薬が重複したことがあった。→ヒヤリハット、職員会議等で報告。

健診を年2回行い、その結果に基づいて助言と指導を行った。また、個別でダイエットその他の健康相談や歯磨き、足浴、爪切り、手荒れ対策を指導。感染病対策としては、手洗い、うがい、掃除の徹底、希望者だけになったが、インフルエンザ予防接種を勧め、受けることができた。また、新たに除菌・消臭に効果のある超音波噴霧器を1階と2階にそれぞれ設置。また必要に応じて加湿空気清浄機の使用も行った。

\*職員健診(事業所健診及び一般健診)を1～2月に行った。

【体力維持】毎週1回30分程度ストレッチ体操を行った。

【害虫駆除】毎月1回

【訪問歯科検診】日本訪問歯科協会の協力により15名が健診を受けた。→ほとんどの仲間が治療要であった。

## 1.3. 防災・設備関連

- ・作業所の防火管理業務について必要な事項を定め、火災等の災害の予防及び人命安全確保並びに被害の防止を図るため、業者による年2回の防災設備点検、職員による2か月に1回の防災自主点検を行った。これにより、職員の防災への意識が高まりつつある。また、火災通報避難訓練と地震火災通報避難訓練を各1回ずつ行った。

- ・職員の変動により中消防署に6月と9月に消防計画作成変更届を、また中消防署の指導により9月には併せて「南海トラフ地震防災規程」の提出した。

【防災設備点検】 (法定) 5/13 (自主) 11/17

【防災自主点検】 偶数月

【通報避難訓練】 火災通報避難訓練 10/20(月)

地震火災通報避難訓練 3/19(木) →雨天のため中止し、室内で地震避難訓練と学習会を行った。

【消防計画作成変更届】 6/3

【消防計画作成変更届及び南海トラフ地震防災規程の提出】 9/30

【設備】職員増員に伴い、パソコンを4台増設。家庭用の電話機をビジネスフォンに変更。これに伴い、電話回線が2本になり、「つながりにくい」を解消することができた。

## 1.4. 助成及び物品寄贈

助成団体	商品	助成金額
広島市心身障害者福祉基金(尾崎基金)	ステンレス製作業台	45,360円
イオン黄色いレシートキャンペーン	電動ポット、体重計など購入	18,700円
独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構	障害者介助等助成金(手話通訳者の委嘱助成)	1回の手話通訳につき4分の3
生協ひろしま	食品保管庫(101,304円)	100,000円

## 1.5. 広報活動

- ・ホームページの更新やフェイスブックに日ごろの活動を掲載した。また「福祉会だより」は、5月、8月、11月、2月の年4回、毎回500部を発行することができ、封入・発送作業は、仲間が仕事として行った。理事長とともに作業所の職員が編集を担当。内容的には、行事の報告ばかりではなく、もっと作業所の日ごろの様子が分かるようなものも取り入れ、読者が関心を持って読んでいただけるような中身づくりにしていきたい。
- ・行事等にはアイラブ作業所のパンフレットを持参し、配布した。
- ・イオン宇品店へ黄色いレシートキャンペーンのボックスを置かせていただいている。

## 1.6. 職員会議及び研修

- ・職員一人ひとりの資質向上のために、年に最低一人一回の研修を保障したが、職員によってはなかなか研修に

参加できない者もいた。月2回の職員会議では、ケース検討や情報や意見交換、研修報告などを行い、時にはグループワークも試み、自分たちの支援や考え方を見直す機会も作った。また職員同士が朝礼ノートに連絡事項を記入し、職員間で情報の格差が生じないよう工夫した。法人内の研修は1回しか開催できなかった。次年度はぜひ2～3回開催していきたいと思う。

【職員会議】月2回

【法人内部学習会】

8月9日(土) アイラブ作業所にて

「発達障害者の支援について学ぶ」

講師：広島市こども療育センター 相談支援専門員 鈴木秀穂さん

\*発達障害者の特徴や特に注意する点について学び、3人の仲間の事例を報告しながら、支援方法について鈴木先生から助言をいただいた。

【職員が参加した主な研修会】

①聴覚障害者関係施設等新入職員研修(京都)

②集団指導(県主催)

③食品表示法学習会(広島市)

④全国きょうされん利用者学習交流会(名古屋)

⑤全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会(大阪)

⑥きょうされん県支部実践交流会(広島市)

⑦広島県の手話通訳問題を考える会(広島市)

【職員面談】 所長が1～2月にかけて個別に面談を行った。

【管理者会議】 法人本部、ヘルパーステーション、手と手の広場、アイラブ作業所の4者会議

4/21、5/26、6/23、7/28、8/25、9/29、10/28、11/25、12/25、1/28、2/24、3/23

## 1.7. 見学訪問及び実習

・7/9 全国盲ろう者協会(3名)が訪問。

## 1.8. アイラブの家について

・9/24 法人が契約、10/27から1名の仲間が入居、生活を始めた。入居にあたって、エアコン等の大きな設備は準備し、その他炊飯器、ポットなどについては、職員からいただいた遊休品を活用した。  
・家賃や光熱費は半額を●さんから毎月徴収している。

## 1.9. 通所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業開所日数	22	26	25	24	22	22	26	21	24	21	20	25	278
利用者数(人)	34	34	34	36	36	36	35	35	35	35	35	35	420
内報酬対象外(人)	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	18
H26年度報酬対象者全体 利用日数(日)	491	524	538	556	436	505	585	477	490	497	483	536	6118
H25年度報酬対象者全体 利用日数(日)	479	527	472	529	451	477	542	500	453	445	434	485	5794

\*26年度 利用者退所者2名。3名増員。

## (C) ヘルパーステーション・アイラブ

平成26年7月、管理者の●さんが体調不良のため、引き継ぎもままならぬまま、退職されバタバタと1年を迎えました。何とか、皆さんに助けられて、職員3名でがんばっています。」

5月…5/29 介護保険事業の実地指導

ヘルパー登録 ●●

6月…管理者を●から●に変更

7月…7/20 利用者・●様死亡

ヘルパー登録 ●●

●●さん（事務・介護職）正社員として採用

8月…アイラブ作業所・ヘルパーステーション合同研修会

9月… 9/7 アイラブ祭り 職員参加

●●さん 作業所を辞められると同時にヘルパー登録中止

パート職員 ●●さん左足骨折、じん帯切断の為、休み 27 年 1 月～復帰

10月…利用者、廿日市●●様 移動支援復活・同行援護に切り替え

●●さんお母さんの入院の為、通学支援始まる。

10/27 ●●さん移動支援・居宅（家事支援）契約

11月…アイラブの家で●●さん移動・居宅支援

朝 9：00～9：30、かえり 16：00～17：00 移動支援（夕食の買い物等）

居宅 17：00～18：30（家事援助・生活援助）

生活に徐々に慣れてきたので、朝を無くし、居宅を月～金を月、水、金に減らし、

又、仲間との共同生活をアイラブの家で訓練するときは、状況に応じて、支援を増やすようにして、現在に  
いたっています。

11/8 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会（大阪）

参加者：●●

12月…12/14 アイラブ作業所 15 周年記念行事 職員参加

1月…1/26 障害者自立支援課（5 名）の現地指導

H24, 1/17～H27, 1/26 の 3 年間

過誤処理 632, 300 円（4 月請求時に処理済み）

1/27 介護保険●●さん契約・週 1 回家事援助

2月…2/27～●●さん・居宅（家事援助）始まる

●●さん・3 年 4 か月ぶりに移動支援 復活

3月…●●さん 通所支援 1 年半ぶりに復活

4月…●●さん 16：00～17：00 ヘルパーステーション勤務・介護職

4/14 介護保険●●さん契約・予防介護・週 3 回

他、アイラブ作業所の行事の手伝い・

街頭カンパ活動に参加

各種会議に参加

#### ※ 同行援護従業者の資格について

平成 26 年 9 月 30 日から同行援護のサービス提供者の資格要件に 同行援護従業者養成研修一般課程の終了が必要  
になるということで 盲ろう者の利用者が多いので、受講をお願いし、15 名の方が取得、受講料 60%を事業所が、  
負担しました。しかし、取得する人が少く、経過措置の期限の延長が、平成 30 年になりました。

※現在、ヘルパーステーションの利用者約 36 名の内、作業所の仲間の利用者は、

同行援護、盲ろう者、全員 8 名、

移動支援 8 名

居宅（家事、身体） 3 名

介護保険 2 名

アイラブ作業所への通所支援、余暇活動、生活支援等で利用しています。

#### (D) 放課後デイサービス 手と手の広場

＜はじめに＞

手と手の広場も開所して 3 年目を迎えた。日々元気な小学部の子もたちが息せき切って学校から帰っ  
てくる。少し遊んで、課題に取り組んで、おやつを食べ、時間が残るとまた遊ぶ。そして、お迎えが少し早  
いと早すぎると文句を言いながら嵐のように帰っていく。中高部の生徒はその前後に「疲れたー。」と言いな  
がらやって来て、職員が買ってきたおむすびをほおぼり、課題に取り組み、時折おしゃべりに花を咲かせ、  
英語のカルタを楽しんだりした後で殆どの生徒は保護者と共に帰る。中高の生徒たちにとって、課題に取り  
組む時間はしんどさも伴う。興味や行動の範囲も広がり、夕方の通所から足が遠のいてしまうこともある。  
子どもたちにとって、どのような場が一番良いのか、今年度も考えながら課題解決していきたい。

## 1. 児童生徒通所実績

2014年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
通常日	155	155	202	129		201	224	184	156	169	189	173	1937
休業日	53	5	19	87	140	11	12	9	69	48	5	79	537
合計	208	160	221	216	140	212	236	193	225	217	194	252	2474

※2013年度実績1994回（5月開所なので11か月）と比較して、530回増。

## 2. 登録状況

2014年度3月

児童・生徒	通所回数	居住地域	備考
小学部 25名	47.5回	広島市・海田町・廿日市	
中学部 11名	12回	広島市・東広島市・呉市	東広島市・呉市の生徒は夏季休暇・土曜の広場に通所
高等部 7名	6回	広島市・竹原市	竹原市の生徒は金曜通所
計 43名	65.5回		

※2013年度末登録状況 43人 54回、登録人数は変わらないが、通所日数が増。

## 3. 指導内容

ア、小学部の流れは、遊び、手と手の広場の課題、自分の持ってきた課題、高学年と一緒に新聞発表の時間（今年度は16時に帰る1名を除き全員が発表に挑戦した）、引き続き各々の課題、おやつタイム、残った時間は遊びと大体流れができています。狭い場所で遊ぶことができるよう、けん玉、こま、お手玉などを用意したり、トランプ、オセロなどのゲームを用意したりしているが、子どもたちは走り回ることが大好きである。気をつけていたが、椅子に足をぶつけて骨折したことは反省しなくてはならない。

イ、中高部は朝練から授業後のクラブをこなし、夕方通所して来る気力、体力をなくし、休むことも多い。同じような日課をこなしても、コンスタントに通所している他校の生徒もいる。

小学部の時、楽しんで「仮のご近所は」は、もう大人に設定してもらう必要もなくなる。

クラスが終われば、気の合った友だちとしゃべり楽しい時間を持ち帰宅。

受験という壁のない状態で、わからなくても困らないという状態で自分を客観的に見つめ直させることは、なかなか困難な状況だったがスムーズに社会に出ていくことができるよう引き続き取り組んでいきたい。

### ウ、土曜広場

昨年に引き続き、月1回、小学部と中高部を隔月で開いた。講師には前年度と同様、●●さん、●●さん、●●さんなど「先輩」にもお願いしてきた。

## 4. 職員

2014年度は社会福祉法人を目指して、濱村理事長も忙しくなることもあり、非常勤だった●●さんに常勤で加わってもらうことになったため、常勤4名、非常勤11名で対応した。年度末には大学生が卒業するため、後輩に声をかけ引き継いでくれたことは大変ありがたかった。

非常勤の多くが大学生で、通勤費の改善がないと、時給に影響していたが、10月にさかのぼって改善することができた。

## 5. 研修

小学部の土曜の広場の後で特に「支援のあり方について」研修した。

自閉症研修会への参加。

CAP講習会を講師を招聘して手と手の広場で開催。

県外研修の実施（● ● ● ●）

### <経過>

4月 保護者懇談

4月（土）広場 小学部

5月（土）広場 中高部

6月（土）広場 小学部

7月（土）広場 中高部



7月24日 自立支援法課による実施指導

※指導員加配加算についての過誤請求の指摘を受ける。2013年9月より2014年1月まで5ヶ月で計45万円を返納した。これ以来、管理事務の大切さを意識している。また、請求事務では、●●さんとの連絡を大切にしている。

7月22日～8月末 夏季休業通所、夏季休業勤務時間

8月 (土) 広場 小学部

9月 防災の話

9月 (土) 広場 中高部

10月 個別の支援計画・見直しの保護者懇談

11月 (土) 広場 小学部

11月 (土) 広場 中高部

12月 (土) 広場 全員

12月24日～

1月5日 冬季休業通所 休業勤務時間

1月 (土) 広場 小学部

2月 (土) 広場 中高部

3月 (土) 広場 中高部

3月 (土) 広場 小学部

3月23日～4月5日 春季休業通所、休業勤務時間

<課題>

- ① 運営をきちんと行うこと。
- ② 分かるまで対応するためには個々の課題が違うため、人手が必要である。
- ③ 登録数、通所数が多いため、新しい契約の申し込みがあっても断らざるを得ない。また、通所日数が指定の範囲を越えるおそれがある。2要件解決のために土曜広場以外の土曜も開所の必要がある。

## 2. 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(円)
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業	就労継続支援B型事業 生活介護事業 作業所特別	通年	法人所在地及び周辺地域	14人	36人	44,860,000
	移動支援事業 居宅介護・同行援護事業	通年	法人所在地及び周辺地域	25人	43人	14,257,000
介護保険法に基づく居宅介護サービスの訪問介護事業、ならびに介護予防サービスの介護予防訪問介護事業	訪問介護事業	通年	法人所在地及び周辺地域	17人	43人	16,751,075
児童福祉法に基づく障害児通所支援事業	放課後デイサービス事業	通年	法人所在地及び周辺地域			

(計 75,868,075)